





木原一里塚2

古戰場  
木原騨



徳川家康公腰掛石

古戰場(木原騨)家康の腰掛石

## 古戦場 木原 噺



元龜三（一五七二）年、鷲巢の久野城を攻めた武田信玄は、ここの木原に陣をはり、浜松城を守る徳川家康の偵察隊と衝突しました。この戦いが世にいう木原噺の戦いです。

六年たった天正六年八月、高天神城（大東町）から徳川軍の様子を探りにきた武田の家臣笹田源吾はこの地で村人達に討ちとられてしまいました。木原大念仏（市指定無形民俗文化財）は笹田源吾を供養するため始まったと伝えられています。

平成十四年五月

袋井市教育委員会



古戦場木原噺2

## 古戦場 木原躰



元龜三（一五七二）年、兵三万五千を率いて甲府を出発した武田信玄は犬居城飯田城を落して久野城へ向った。しかし久野宗能の激しい抵抗にあったため東海道を西に向い、ここ木原・西島に陣をはった。これを知った徳川家康の兵とこの付近でこぜり合いをくり返した信玄はやがて二俣城を攻略し、東三河へ向うべく三方ヶ原を通過しようとした。これに対して家康は兵一万で迎え撃ったが信玄の大軍の前に一蹴され浜松城へ逃げ帰った。これが世にいう三方ヶ原の合戦で、木原での戦いはこの前哨戦ともいうべきものであった。

一九八五年五月

袋井市教育委員会

古戦場：木原躰3

## 木原

木原は元亀三(一五七二)年に  
武田信玄が徳川家康を破った  
三方原の戦いの前哨戦(木原戦  
の戦い)の地として知られてい  
ます。

また武田勝頼率の斥候(せきこう)  
源吾に由来する「木原大念仏」  
(市指定無形民俗文化財)の発祥  
の地でもあります。

地区内には原寸大に復元さ  
れた木原一里塚をはじめ木原  
権現社(式内許禰神社)長命寺  
菅田源吾の墓や供養塔 徳川家  
康腰掛石など多くの歴史遺産  
が残っています。



木原



東海道五十三次  
従昆  
どまん中ふくろの  
袋井宿まで2.1km

SUCCEED  
サクソード

東海道のど真ん中



(あばれ)天童川を目指す





245

磐田市  
Iwata City

見付  
Mitsuke

日本橋より245km



天竜川橋:約1.5km



新天竜川橋(広い歩道あり)



天竜川橋2



新天竜川橋



天竜川橋




旧東海道

旧東海道標識



金原明善翁生家  
(天竜川治水事業)





金原明善翁生家

金原明善翁生家2

安間学校跡

昭和  
昭石  
昭和  
昭石

昭和  
昭石  
昭和  
昭石

安間学校：金原明善寄付



浜松の手前



浜松の手前2

# 高札場跡

## 高札跡

この村に柱を立てて  
高札場掲げた高札所が  
ありました。

村の人々に決意やおまじ  
を知らせるために書か  
れた木札を高札とい  
います。

高札場跡 平成25年10月

高札場跡

← 弁天島温泉  
↑ 旧東海道松並木

舞阪の松並木1



舞阪の松並木2



舞阪の松並木3





舞阪の松並木4



舞阪の松並木5



舞阪の松並木6



舞阪の松並木7



舞阪の松並木9



舞阪の松並木8

# 舞坂

今切真景

舞坂宿は江戸日本橋から六七里（二六四・九半口）、品川宿から教えて三〇番目の宿である。東海道の陸路は舞坂で一度切れて、ここから新居宿まで海上一里半船を便りとして渡ることになる。浜名湖は、かつて遠淡海（遠江）とうたわれる淡水湖であったが、明応七年（一四九八）の地震により切れて入海となった。その切れ口を今切と呼ぶ。地震による被災から復興して今切渡船の発着地となり、舞坂は交通の要地となった。



舞坂



浪小僧  
この像は、昭和30年（1955年）に、  
舞阪の町に建てられた。この像は、  
浪小僧の姿を写し、子供達の  
心を和ませ、町を盛り上げる  
ために建てられた。この像は、  
浪小僧の姿を写し、子供達の  
心を和ませ、町を盛り上げる  
ために建てられた。

舞阪：浪小僧



# 舞阪内図





舞阪の松並木10



舞阪の松並木11

0m  
0m  
10m

舞阪の地味な名産品です。愛  
知県の舞阪地区で、見付石  
を採り出すのが、見付石の  
産地です。見付石は、石  
の産地として知られてい  
る。見付石は、石の産地  
として知られていて、石  
の産地として知られてい  
る。見付石は、石の産地  
として知られていて、石  
の産地として知られてい  
る。

市内ののる  
国民のために  
相模 政行

ひらすのり  
製造直売  
500円 相模 政行



市内ののる  
国民のために  
相模 よしこ

舞阪：見付石垣





## 史跡 見付石垣

この石垣は舞坂宿の東はずれに位置している。石垣の起源の詳細は明らかでないが、宝永六年（一七〇九年）の古地図には既に存在している。見付は見張所にあたり、大名が通行の時などには、ここに六尺棒を持った番人が立ち、人馬の出入りを監視するとともに、治安の維持にあたった所である。

美阪町教育委員会

見付石垣2





文三年  
東海道御宿  
宿内評判書發回和

舞阪宿：案内板





舞阪宿：一里塚





半堀江商店

舞阪宿の街並